

第4学年 国語科学習指導案

日 時：令和4年1月26日（水）

第5校時 13:20～14:05

対 象：第4学年1組 28名

授業者：中島 恵大

会 場：4年1組 教室

1 単元名 きょうみをもったことを中心に、しょうかいしよう

教材名 「ウナギのなぞを追って」（国語・四下 光村図書）

2 単元の目標

- (1) 様子や行動を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。
〔知識及び技能〕(1)オ
- (2) 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができる。
〔思考力・判断力・表現力等〕C(1)ウ
- (3) 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。
〔思考力・判断力・表現力等〕C(1)オ
- (4) 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。
〔思考力・判断力・表現力等〕C(1)カ
- (5) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。
〔学びに向かう力、人間性等〕

3 単元で取り上げる言語活動

調査報告文を読み、文章の一部を利用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする。

4 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①様子や行動を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。	①「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。 ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。 ③「読むこと」において文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。	①文章を読んで理解したことに基づいて、すすんで感想や考えをもち、学習課題に沿って、教材文を紹介する文章を書こうとしている。

5 指導観

(1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領(平成 29 年告示) 第 2 章 第 1 節 国語〔第 3 学年及び第 4 学年〕を受けて設定した。

C 読むこと

(1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるように指導する。

ウ 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約すること。

オ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。

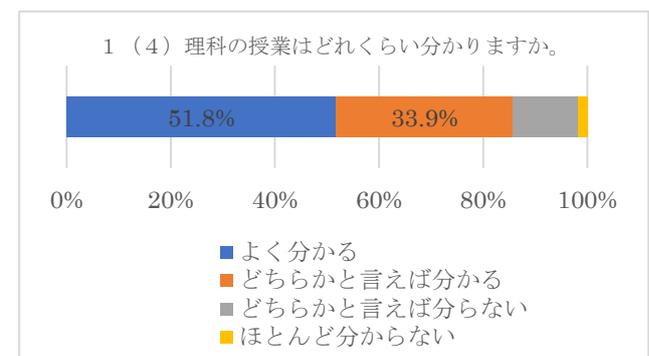
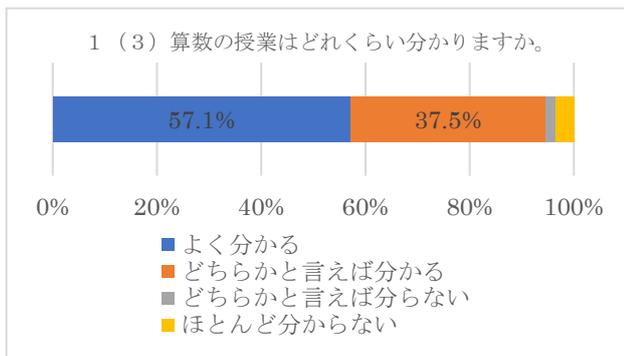
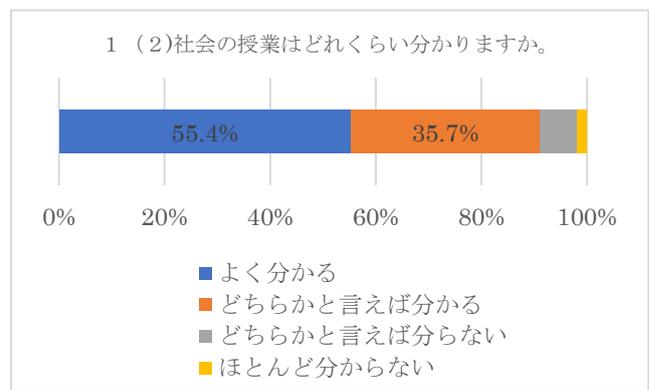
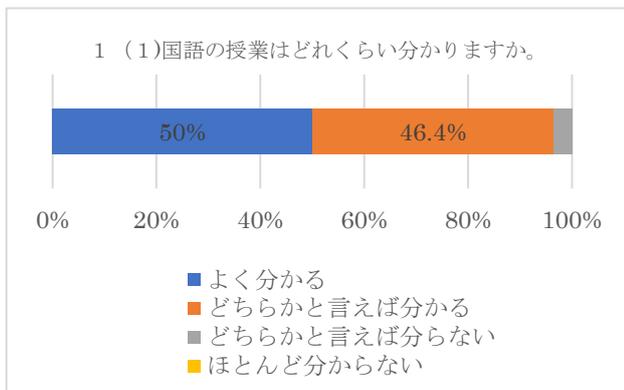
カ 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。

教材文「ウナギのなぞを追って」を読み、興味や関心をもったことを中心に紹介するという言語活動を設定している。この活動を通して、一人一人の文章への着目の仕方や感想の違いを知ることが目的としている。

この教材文は、長期に渡るウナギの産卵場所を探る調査報告文である。調査過程で明らかになる事実とそれに対する考察のおもしろさ、長い年月をかけて地道な努力を重ねる研究者の姿勢、前半のマクロな視点からの経過報告と後半の描写を交えたミクロな視点による報告等、多様な興味に応えうる文章である。したがって、読み手の様々な目的や必要に応じた読み取りに適していると言える。

(2) 児童観

本校第 4 学年の児童 (60 名) は、「児童・生徒の学力向上を図るための調査」(令和 3 年 11 月 29 日実施)において、「1 各教科の授業の内容に対する理解の程度」の質問についての回答は、以下の通りだった。



また、「3 学習の動機」に関して、「(1) 分かることやできることが楽しいから。」や「(2) しつかりと考えられるようになりたいから。」の質問では、8割以上の児童が肯定的な回答をしている。その他の質問でも、肯定的な回答の割合が「学校全体」では東京都の数値を下回っていても、「第4学年」では上回っている項目も多く見られた。このことから、児童は分かるようになりたいという思いをもって学習に臨み、分かる楽しさや喜びを感じながら学習活動に取り組んでいるといえる。

しかし、「4 学習の進め方」に関しては「(1) 確実にできるようになるまでくり返し練習している。」の質問で肯定的な回答の割合は、東京都第4学年が65.9%に対し、本校第4学年は57.1%と、約9ポイント下回っており、「(7) 学習してもできるようにならないときは、学習の方法を工夫している。」の質問では、東京都第4学年が67.2%に対し、本校第4学年は60.7%と約7ポイント下回っていた。

この結果、分からなかったり、苦手だと感じたりしたものに対し、試行錯誤したり、何らかの手だてを講じて克服しようと努めたりすることに消極的で、「自分はこういう学習は苦手だから。」と割り切ってしまう傾向があると考えられる。それは、「5 (5) テストで漢字をまちがえたときは、どこをまちがえたのかを確かめている。」の質問で「とてもあてはまる」と回答した児童の割合が71.4%だったのに対し、「5 (4) テストやドリルでまちがえたときは、まちがえた漢字を選んで、特に練習している。」の質問では、「とてもあてはまる」と回答した児童の割合が28.6%にまで下がっていることからいえる。

また、友達との考えの交流や意見を述べる活動を通して、自身の考えを広げたり深めたりすることに価値を感じている児童が少ない実態がある。「5 (11) 自分が考えたことを積極的に他の人や先生に伝えようとしている。」の質問では、否定的な回答をした児童の割合が56.4%であり、半数近くの児童が自分の考えを他人に伝えようとはしていないと考えられる。

さらに、「5 (9) 他の人と意見がちがったときは、質問をして相手の考えを確かめている。」の質問では、否定的な回答をした児童の割合が46.4%と、やはり半数近い児童が、自分とは異なる考えや意見を参考にして自分の考えを見直したり再構築したりせず、異なるものは関心を示さない傾向があると思われる。

学習に意欲的に取り組み、分かることの楽しさや喜びに関して前向きである児童なので、本教材文を児童が関心のあるテーマ（「興味を中心」と呼ぶ。以下同様）に基づき、要約していく活動を通して、同じ文章を読んでも「興味を中心」に応じて一人一人の解釈や感想の違いがあることや、同じ「興味を中心」を選んだ友達同士の中でも細かな解釈や感じ方には違いがあることに気付くという経験から、解釈や感想の多様性を認め合う姿勢を育て、それにより自身の学習が広がったり深まったりするよさを味わわせたい。

(3) 教材観

本教材の学習で、当たり前のように疑問の眼差しを向けて研究することのおもしろさに気付かせるとともに、仮説を立てて検証していく科学的な調査研究の方法と、研究者たちの気の遠くなるような作業の連続やそれを支える情熱がどのように表現されているかを読み取らせたい。

また、写真や図などを用いて説明することの効果についても考えさせたい。

さらに、本教材は多様な興味に応えうる文章であるため、読み手それぞれが興味や関心をもったところを中心に、内容をまとめて紹介する言語活動に適している。筆者のインタビューを記載した「もっと読もう」も併せて読み、一人一人の興味を中心を明らかにしたうえで、既習の要約の力を生かして言語活動に取り組ませたい。

6 研究主題との関連

(1) 研究主題

学びに向かう力を育むための指導の在り方を考える
～「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の分析を通して～

(2) 研究主題を受けた目指す児童像

- ・自らの学習を調整しながら、粘り強く、課題に取り組むことができる子

[学びに向かう力が育成された児童の姿]

- ①課題を正しく捉え、それに向けて適切な解決を図ろうとする。
- ②自分の考えを伝え、友達のことを聞くことで共通点や相違点を考え理解しようとする。
- ③友達の考えを基に、自分の考えを見直し、よりよい考えを構築しようとする。

(3) 目指す児童像に迫るための研究仮説

「児童・生徒の学力向上を図るための調査」から、児童の実態を把握し、実態に適した学習内容の工夫をすることで、児童が意欲的に学習に取り組むようになるであろう。

(4) 目指す児童像に迫るための具体的な手だてと、ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度

- ①課題を正しく捉え、それに向けて適切な解決を図ろうとする。

(ESDの視点 進んで学習に参加する態度)

- ②自分の考えを伝え、友達の考えを聞くことで共通点や相違点を考え理解しようとする。

本単元では、「興味を中心」ごとに3～4人程度のグループを作成し、そこで「自分の考えを紹介する。」「紹介されたそれぞれの考えから、共通している内容を見付ける。」「自分とは異なる考えについて意見を言ったり、よさを考えたりする。」などの活動を行う。

そうすることで、「興味を中心」に基づいた、核となる叙述を協働的に精選できると共に、一人一人の感じ方や考え方に違いがあることに気付き、その違いを「よさ」として捉えることができるようになると考えられる。

(ESDの視点 多面的・総合的に考える力)

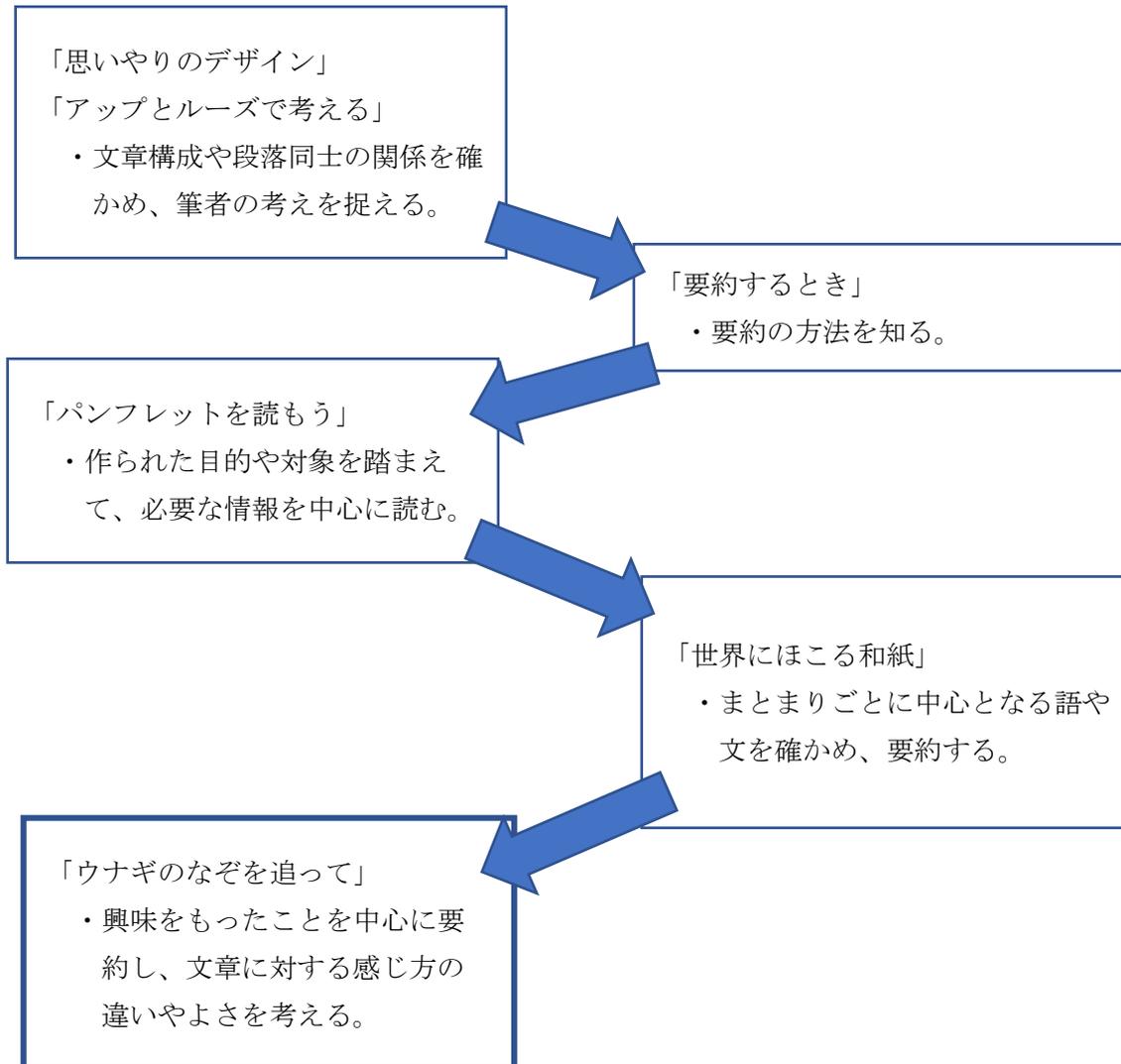
- ③友達の考えを基に、自分の考えを見つめ直し、よりよい考えを見いだそうとする。

②で、「興味を中心」の核となる情報を共有し、自他の感じ方や考え方の違いを捉えた後で、改めて、児童が自身の「興味を中心」に基づいて教材文を要約して紹介する。その際、グループでの対話を通して学んだことを踏まえて自分の考えを見つめ直し、深めたり改善したりしていく。

そうすることで、一度思い付いた自分の考え方に固執せずに、「もっとよい考え方はないか。」「自分とは異なる考えで生かせることはあるか。」と、自分の学びを振り返り、必要に応じて自己調整する姿勢が育つと考えられる。

(ESDの視点 批判的に考える力)

7 年間指導計画における位置付け



8 単元の指導計画と評価計画 (全8時間)

次	時	目 標	・主な学習活動	評価規準(評価方法)		
				ア	イ	ウ
第一 次	第1時	単元のめあてや課題を理解し、本文を読んで興味をもったところを中心に初発の感想を書くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・P87を読み、単元のめあてと課題を理解する。 ・P98～99を読み、学習の見通しをもち、学習計画を立てる。 ・CDの範読を聞き、初発の感想を書く。 			① (記述)
	第2時	教材文を読んだ感想を話し合い、感じ方や興味の中心がそれぞれ違うことに気付くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・感想を発表し合う。 ・自分や友達の興味の中心を確かめ合う。 ・大事な語や難解な語句の意味調べをする。 		③ (発言) (記述)	
第二 次	第3時	「初め」、「中」、「終わり」の構成を捉え、話題提示とまとめを対応させながら、内容を読み取ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・大まかな文章構成と、「初め」、「中」、「終わり」の内容を捉える。 ・「中」の前半と後半の区切りを予想する。 	① (記述)		
	第4時	「中」のまとまりを、文末やキーワードに気を付け、写真や図表と照らしながら読み、調査の道筋を理解することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「中」を読んで、調査の道筋と内容を捉える。 		② (発言) (記述)	
	第5時	「中」のまとまりを読み、調査を前半と後半に分けて小見出しを付けることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「中」の前半と後半を捉え、小見出しを付ける。 ・「もっと読もう」を読み、紹介文を書くときの興味の中心をはっきりさせる。 		① (発言) (記述)	
	第6時 (本時)	自分の興味の中心に沿って、大事なことを書き出しながら文章を読むことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・興味をもったことに沿って、大事な言葉や文を書き出し、整理する。 		① (記述)	① (発言)
	第7時	自分の興味の中心に沿って文章を要約し、紹介文を書くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介文の構成を理解する。 ・興味をもったことに沿って、本文を要約し、感想を加えて紹介文を書く。 			① (記述)
第三 次	第8時	紹介文を読み合い、それぞれの興味やそれについての感想、表現の仕方などの違いに気付くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで紹介文を読み合い、感想を伝え合う。 ・単元の学習を振り返る。 		③ (発言) (記述)	

9 本時（全8時間中の第6時）

（1）本時の目標

自分の興味の中心に沿って、大事なことを書き出しながら文章を読むことができる。

（2）本時の展開

時 間	○学習活動 ・予想される児童の考え	◇指導上の留意点 ◆配慮事項	△評価規準 (評価方法)
導 入 (7分)	○本時のめあてを確認する。 自分の「きょうみの中心」に沿って、大事な言葉や文を書き出そう。		
展 開 (35分)	○文章を、興味の中心に沿って整理する方法を確かめる。 ・箇条書きで書き出す。 ・自分の興味について「答え」になっているところを探す。 ・必要な部分にしぼる。 ○自分の興味の中心に沿って大事な言葉や文を書き出す。 ・レプトセファルスの旅に関する内容を各段落から探してみよう。 ・研究に長い年月がかかることが伝わる部分を探してみよう。 ・結果から仮説を立てて、調査していく流れを探してみよう。 ○整理したことをグループで読み合い、思ったことを伝え合う。 ・自分と同じ部分に着目しているから、この部分は、要約するときに必要な部分になりそうだ。 ・自分が気付かなかった箇所を多くの友達を書き出していた。理由を聞いてなるほどと思った。	◇P98 下段の「整理の例」を資料として用いる。 ◇第2時でまとめた感想の興味の中心を提示し、児童に自身の「興味の中心」を再確認させる。 ◆本文の大事な言葉や文に線を引かせ、それをノートに書き出させる。 ◇「興味の中心」が同じ児童同士で予め分けておいた少人数のグループで話し合わせる。 ◆興味の中心が同じ友達と考えを紹介したり、情報を共有したりする場を設定することで、どの児童でも要約へのイメージをもつことができるようにさせる。	△イー① 「興味の中心」に基づき、叙述から適切な情報を選び、簡潔に書き出すことができる。 (記述) △ウー① 話し合いから要約に必要な情報を精選しようとしている。 (発言)
まとめ (3分)	○本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。 ・みんなで共通している部分をつなげば、自分たちの「興味の中心」に沿った紹介文が作れそうだ。		

(3) 板書計画

<p>(整理するときのポイント)</p> <ul style="list-style-type: none">・教科書に線を引く・箇条書きで書き出す。・自分のきょうみの「答え」になっている部分を探す。・必要な部分にしぼる。	<p>(ワークシートの拡大)</p> <p>整理の例</p>	<p>うなぎのなぞを追って</p> <p>◎きょうみをもったことを中心に、しようかいしよう。</p> <p>○自分のきょうみの中心にそって、大事な言葉や文を書き出そう。 (きょうみの中心)</p> <ul style="list-style-type: none">・研究に長い年月がかかること・レプセトファルスの旅・研究や調査の方法・研究者の地道な努力・小さな生き物の大きな発見・まだまだ分からない自然の世界
--	--------------------------------	--

(4) 授業観察の視点

- ・「興味を中心」を予め設定し、それを選ばせて考えさせたことが、児童にとって、意欲をもって学習することや、課題を正しく把握し、適切に解決を図ることにつながっていたか。
- ・3～4人のグループを作成し、対話することで自分と友達の考えを比較し、理解を深めることにつながっていたか。
- ・グループでの対話が、児童各自の当初の考えを深めたり改善させたりすることにつながっていたか。